

日本プライマリ・ケア連合学会と日本在宅医学会の提携について

基本的な考え方

日本プライマリ・ケア連合学会は「人々が健康な生活を営むことができるように、地域住民とのつながりを大切に、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動を行うこと」を理念と掲げている。在宅ケアが重要な柱として位置づけられていることは言うまでもない。

日本在宅医学会は「在宅医療に関わる多くの人の理念・知識・経験を集積し、外来診療や病院等の施設内医療とは異なる【原理 Principle】を確立し、在宅医学を構築すること、在宅医が集い、在宅医療の Science と Art をともに研鑽し、在宅医療を Interesting で Exciting と感じる医師・医療者を育成することが、在宅で療養する方々とそのご家族の“生活の質”の向上に寄与する」と掲げている。

つまり、プライマリ・ケアの現場における外来診療・在宅診療・病棟診療・地域志向型ケアの提供を基盤とするプライマリ・ケア連合学会と、在宅診療に特化し深化した実践と教育を提供している在宅医学会は、まさに兄弟関係にある。

専門医制度改革における新基本領域としての総合診療専門医制度が今後整備されることを踏まえ、両学会は一層の連携をはかることを合意した。

両学会は以下の3項目について共に取り組む。

- 1) 相互の学会員の知識・技能の向上を図るため、両学会のセミナー、学術大会などにおいて、研修会や情報交換の場を協同で企画する。
- 2) 相互の学会における専門医制度について、研修プログラムの相互乗り入れを積極的に推進する。
- 3) 新しい専門医制度の導入に関連して、両学会は協力して在宅医療研修の充実を図るものとし、その研修目標や内容、指導体制等について協議する場を設ける。

以 上